以上で、和泉議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を１時といたします。

〈午後０時０１分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤　麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。　〔６番　伊藤　麗君登壇〕

○６番（伊藤　麗君）

伊藤　麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、１回目の質問を行います。

１、観光の基幹産業化について。

ジオパーク、温泉、道の駅、歴史、文化など、既に観光資源が豊富な当市において、観光産業の育成は、地域の雇用や税収の増加が期待されることから、今後の地域経済にとって重要な要素と考え、以下質問いたします。

(1) 糸魚川市が観光を産業化するに当たって現状の課題は何と捉えているか伺います。

(2) 交通アクセスの整備と景観の保全についての取組を伺います。

(3) ガイドの育成についての取組を伺います。

(4) 糸魚川を訪れた人が翠ペイを利用する仕組みづくり（さらなるサービス拡充）の可能性について伺います。

２、子育て支援について。

「子育て支援」とは、子育てをする女性のための支援ではなく、子供本人と、その子供を育てるのに関わる人、子供を育てる人の職場の人など、全ての人に関係する支援であるという考えに基づき、以下質問いたします。

(1) 糸魚川総合病院における分娩取扱い再開に関しての進捗と、これまで分娩休止に伴って実施していた事業について、今後の方針を伺います。

(2) 医療費の無償化が大変喜ばれていますが、病児保育の受益者負担軽減やゼロ歳児から２歳児までの保育料の無償化、給食費の無償化など、さらなる拡充の考えがあるか伺います。

(3) 子育てする人に対するアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）について、市民への啓発、教育委員会・庁舎内職員の研修が必要と考えるが、市の考えを伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、観光事業者などが連携できる仕組みづくりと来訪者のニーズに応じた受入れ体制の充実であると捉えております。

２点目につきましては、主に糸魚川駅からの２次交通の確保に向けて取り組んでおります。

また、景観につきましては、ジオパークの考え方や県の景観計画に基づき、地域の方々とも協力をしながら、保護と保全に努めてまいります。

３点目につきましては、ジオパーク観光ガイドの会と連携をしながら、魅力のあるガイドの育成も見据えた新たな枠組みを検討してまいります。

４点目につきましては、地域や店舗独自のポイント付与により差別化を図ることができるため、市内事業者や団体の皆さんからも積極的な誘客にご活用いただきたいと考えております。

２番目の１点目につきましては、医師が着任され、１１月下旬から分娩を再開いたしております。分娩休止により開始いたしました出産時の交通費や宿泊費の助成などは、継続の方向で考えております。

２点目につきましては、今のところ拡充の考えはありませんが、国や県の動向を注視しながら、各種支援制度の充実を図るなど、引き続き安心して子育てができる環境づくりに取り組んでまいります。

３点目につきましては、子育てに限らず、市民啓発や職員の資質向上の観点からも研修は必要と考えております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

それでは、番号１のほうから再質問をいたします。

観光を担う機関として糸魚川市内には、一般社団法人糸魚川市観光協会と、２０１９年に当市にも設置された日本版ＤＭＯ（観光地域づくり法人）があります。この２つの観光における役割を整理しながら、行政に求める支援を大きくインフラ整備、教育、研修支援、マーケティング支援として、糸魚川市の観光が、今市内に存在する観光資源を用いて稼ぎ続ける観光地域づくりになるよう、以下、２回目の質問に移りたいと思います。

それでは（１）についてなんですけれども、初めにお伺いしたいと思います。

糸魚川市の観光をどのようにしたいのか、目指すべき姿を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

市の最上位計画であります第３次総合計画には、将来的ににぎわいと活力のあるまちづくりに資するため、地域資源を磨き上げ、効果的な情報発信と誘客により、観光地域づくりを推進することを基本方針としております。

私なりの解釈ではございますが、糸魚川市を訪れる観光客が、糸魚川市の稀有な自然など、地域資源を見ていただき、感じていただくことで幸せな気持ちになり、その気持ちを市民や、また商いをやってる方々に伝えていただきまして、うれしくなると。うれしくなってるから、またおもてなしをするということで、その循環をつくり上げ、観光客や、また私たち市民が、両者がウィン・ウィンとなるのが、目指すべき姿ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

ウィン・ウィンな関係ということで、好循環をつくり出したいということなのかなというふうに理解いたしました。それを糸魚川市観光協会、地域観光づくり法人、市民、それぞれに共有する必要があると思います。糸魚川市は、既に一般社団法人糸魚川市観光協会の中にＤＭＯを設置していますが、自治体は、１つのＤＭＯ法人しか設立許可できないものなのでしょうか。

糸魚川市の観光産業を育成するには、ＤＭＯこそが要で、その在り方を観光庁の示す理想の観光地域づくりの司令塔、すごいことが書いてあって、私もびっくりしたんですけど、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりの司令塔となる法人というふうに示されているんですけれども、それを目指す必要があると考えます。本来、全く分けたほうがいい団体、いい法人なのではないかなと思うわけでありますが、その部分いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

まず、糸魚川市が目指す、あるべき姿につきましては、あらゆる機会を使いまして、一応お伝えしてるつもりではございます。

ただ、議員ご指摘のとおり、やはり市民など、より多くの方がご理解とご協力いただけるよう、見える化のほうをしていきたいなというふうに思っております。

また、ＤＭＯが市に１つしかできないのかというお問合せなんですが、やはりＤＭＯの設置につきましては、国のほうでは１つというふうには明示はされておりません。

ただ、目的とコンセプト、また組織体系が類似している場合には、重なって認定というのはなかなか難しいものというふうに認識しております。

観光協会とＤＭＯにつきましては、やはり観光で収益を上げるためには、旅行会社をはじめ各種

様々なステークホルダーを巻き込む必要がございますので、やはり観光振興組織と一番つながりが強い観光協会が司令塔としてリードする体制は、現時点ではベストではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

これ観光協会の方から頂いた資料なんですけど、観光協会というものは、いろいろ観光協会とＤＭＯの、それぞれ目的が違うと思うんですけど、最終的な目的は、先ほど課長おっしゃってくださったように好循環を生み出す、地域観光で好循環を生み出すということであっても、例えば観光協会は、行政の補助金に頼ることで事業の幅を拡大させていくのがちょっと難しかったりだとか、難しい部分が多くある。それに対してＤＭＯは、地域が主体となってお金と雇用をつくり出す事業を目指していくというふうにありますので、今、市内の観光協会って、糸魚川支部と能生支部と青海支部に分かれている状況だと思うんですけれども、本来のＤＭＯの目指すべき姿を求めていくんであれば、観光協会の中に置いたままだと、ちょっと難しいのかなというふうに率直に感じるわけなんですけれども、その部分、もう一度ご答弁いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今ほどご質問のとおり、今現在は支部体制を取っております。観光協会におきましても、やはり様々なイベント等を進める中で、支部体制というのは不都合な点もございますし、また、財政的にも弱体化もしてきておることから、今体制の見直しというのを図っておるというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

最終的には、ＤＭＯも財源的に自立していくことを目指していくということだとは思うんですけれども、現状の糸魚川のＤＭＯの行政からの支出による財源率というのは何％なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

平成４年度の決算ベースでございますが、行政からの支出による財源につきましては、約７割となっております。

失礼いたしました。訂正させていただきます。

今ほど「平成」というふうに言いましたが、「令和」の間違いでございました。失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

約７割ということなんですけれども、私、このＤＭＯの成熟度合いをはかるのに、その財源の依存率というのが、推しはかるのにいい指標になる。指標の一つになるんではないかなというふうに考えまして、質問させていただきました。約７割ということは、まだまだ自立している状態ではないというふうに理解させていただきました。これを自立していくために行政は支援していくということだと思うんですけれども、続けて質問してまいります。

私ども、会派で京都府、海の京都ＤＭＯを視察研修してまいりました。海の京都ＤＭＯは、京都北部の観光強化のために、広域連携でのＤＭＯであります。京都府の肝煎りであり、京都府の出向職員がメインで経営がされておりました。京都府の観光に対しての姿勢に大変羨ましく、羨望の思いで研修して帰ってまいりましたけれども、改めて観光庁の描くガイドラインを読んでみると、出向職員中心の運営のままでは、専門的なスキルの蓄積や人脈の継承、組織としての専門性の維持・向上が困難になるので、県や市から職員を出向させるということは、それ自体必ずしもいいことだというわけではないということも分かりました。

外部人材で観光分野のリーダーを育成し、登用するお考えがあるか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今現在は、ご存じのように市の職員２名が出向しております。先ほど東野議員にもお答えいたしましたが、地域活性化起業人制度を活用しまして、民間会社から人材派遣を受ける中で、観光協会職員の育成にも努めておるところでございます。市の出向につきましては、やはり組織の財政状況や継続性などの状況を確認しながら、段階的には引き上げる方向で検討はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

観光協会の人材を育成していくということなので、観光協会の中に入ってくれている人を育成していくというイメージだと思うんですが、それでは行く行くは、今観光協会の職員でいらっしゃる方がそのようなリーダーになっていくイメージということでよろしいでしょうか。例えば市内で既に活躍してらっしゃる方を中に取り込むとか、そういう考えではないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えします。

基本的には、やはり観光協会職員が、ＤＭＯを引っ張っていっていただきたいなというふうに思っております。

ただ、今ほど議員のおっしゃるように、地域で活躍されていて、また、観光業、ＤＭＯ等にたけてる方がおられれば、その方も一緒になって実施していくと。その組織の中に、また入っていただくというのは可能だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

正規の職員の方を新しく雇用するというふうになりますと、先ほどの質問にも関わってくるんですが、人件費の確保が困難であるなど、安定的な財源の確保が必須だと思うので、もしかするとＤＭＯがもう少し育ってからの話になるのかなというふうに、考えながらお話を聞かせていただきました。

それでは、今市内にある観光資源ということで、権現荘について、例えばでお伺いしたいんですけれども、権現荘の設置目的は、もともとは住民の健康増進、交流人口の創出でありますけれども、糸魚川市の観光において、どのような位置づけであるか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

観光におきましては、糸魚川市の広大な面積を持っている当市におきましては、東側におきます市内の、宿泊施設の一つであり、シャルマン火打スキー場と連携できる施設だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今、権現荘につきましては、現状、民間譲渡が検討されている状況ではございますけれども、その譲渡を検討している相手方は、スキー場、ゴルフ場を将来的には一元管理の提案をしてくれているというふうに聞いております。それは、民間から見て、あの地域が観光資源として魅力的に映ったからだと理解しています。まだ相手方と交渉中ということで、先方の詳細な情報を私たちも知らされていないんですけれども、全員協議会以降、進捗があったのか、この際、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。　〔能生事務所長　高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

現在、譲渡を募集しているのは権現荘だけでございますが、将来的な提案として、スキー場、ゴルフ場というようなご意見もいただいていることは、確かでございます。

現在、選考された応募者の状況調査を行っているところでありますので、今議会中の建設産業常任委員会に説明をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今定例会中に説明があるということですね。建設産業常任委員会の傍聴を楽しみにさせていただきたいと思います。

新たなターゲット開拓の可能性と、糸魚川全体のインバウンド観光への転換の可能性に寄与するものだと大いに期待しておりまして、私としては、ぜひとも推進してほしいと考える立場ではございますけれども、ここでも地域との合意形成を得ながら進めていくことを切に願いたいと思っております。そういった役割を果たしていくのも、今後はＤＭＯだというふうに理解をしているんですけれども、権現荘においては、現状、公の施設です。譲渡とその後も無責任になることなく関わり続けてほしいと思いますが、その辺りいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

民間譲渡先のサービスがどのようなものになるかというのは、まだ見えておりませんが、先ほど私申し上げましたように、権現荘は、能生地域の観光拠点の一つと位置づけておりますので、今後、譲渡が行われたとしましても、稼げる観光を目指しておりますＤＭＯの実施体制に入っていただきまして、継続して市が関わっていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

了解しました。

では、（２）のほうに移りたいと思います。

グリーンスローモビリティの糸魚川駅周辺での実証実験が行われたと思うんですけれども、どのような感触を得たか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。　〔都市政策課長　五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先般、１１月２０日ですが、糸魚川駅からフォッサマグナミュージアムの間、あと京ケ峰の玉翠園、谷村美術館さんのほうから、蓮台寺の翡翠園の間で実証運行を行いました。平日ということで、なかなかお声がけした人が乗っていただいたという状況なんですが、スピードが制限されていて、音も静かなので、会話をしながら景色を楽しめたとか好意的な意見もいただく反面、あまり長い距離の移動には不向きなんでは、ですとか、時期が時期だったので、冬の寒さ対策というのは、これマストだねというような声も聞かせていただきました。

導入に当たりましては、そういう課題ですとかコスト、あと担い手、様々な課題がありますので、今議員ご指摘のように、観光的とかにぎわいとか、そういう観点で使うというふうになりますと、今までは交通量の多いところは厳しいとかそういう観点でしたけど、例えばそれが許されて、なおかつ景色を楽しめるところ、あとそういう新しい何か視点も必要なんだなというところは、今のご質問で認識をしたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

この実証実験に対して、市民の方からすごくいいことだと思うというご意見を頂戴しておりまして、例えば観光地に降り立ったときに、ああいうものが走ってるのを見るだけでもにぎわいを感じられるという効果もあると思うので、すごく好意的に捉えているという意見を頂戴いたしました。

先ほど和泉議員からも自家用有償旅客運送についてご提言ありましたけれども、私からも、多分、制度的にはそこまで違いはないのだと思うんですが、ライドシェアリングについても可能性をお伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

加えて、次の質問にも続いてくるんですけど、翠ペイの利用者のみが使えるような会員制の仕組みを用いてはどうかというふうに考えたのでありますが、その部分、お考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。　〔都市政策課長　五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ライドシェア、これも観光地をはじめとするタクシーの運転手不足という、担い手不足というところが、こういうワードが出てきた背景にあると思います。現在、国において議論がまさに始まったところでございまして、安全性の確保ですとか、利用者保護、使う人が安心して使えるかというような課題をクリアしていく必要があるというところが議論されているという状況でございます。

一方、大西課長の答弁にもありましたでしょうか、観光二次交通というのは、当市の課題でござ

います。グリーンスローモビリティですとか自家用有償運送、ライドシェア、様々な手法がございます。これ、その場所に適した取組というのは、検討していかなければならないというふうに私どもは捉えております。

あと翠ペイは、今現在は市民の方にいっぱい使っていただくように、お店にもいっぱい参加していただけるようにというふうに、普及に努めておる段階というふうに聞いております。今、観光という視点ですが、利用する際のサービス向上というところ、また糸魚川に来ていただくというリピート効果というのも期待しながら、そこも、ありがとうございます、検討に加えていきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

私も、そうですね、ちょうどこの交通インフラというか、その部分の議論が国全体で今温まってきているなというふうに感じておりまして、糸魚川市においても、実証実験などを積極的に行ってほしいなというふうに思っております。

次、景観についてなんですけれども、例えば駅北の町並みは、景観・不燃化ガイドラインによって整備されておりまして、まだ発展途上の部分ももしかしたらあるのかもしれませんが、地元住民の協力を得られて、整備がされている。あの町並みに関しては、私は１００年先も守るべき町並みだと思うんですけれども、ほかにも市内には残すべき町並みがあると個人的には思っております。ここは行政が主導として選定をして、該当地区にその地域のすばらしさ、１００年先もこの地域の景観を残していきたいということを丁寧に説明し、条例制定、もしくはガイドラインの制定、その地域に合う方法・手法を選んで実行していってはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。　〔都市政策課長　五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

本町通り及び周辺の景観・不燃化ガイドラインに関しましては、大火によって失われたものを取り戻すという観点で皆さん研修等もしていただきましたが、どちらかというと行政がリードをさせていただいたというのは事実でございます。

ただ、伊藤議員おっしゃるように、糸魚川市には、まだほかに景観的に優れたところが、少なくとも片手ぐらいはあると思っています。町並みという意味でですね。ただ、それの保全ですとか活用というのは、そこに住まれている皆さんですとか、あと、そういうのを活用して観光に生かしたいとかいう皆様と一緒にやるということが、これは必須条件だというふうに思っています。その上で、今ほど伊藤議員のイメージの中にあるような優れた町並みを残していきたいとか、観光客を呼び込みたいとか、そういう気持ちを盛り上げるための何か芽を、盛り上げたり何だりするような、そういう背中を押すような仕事というのは、行政の役割であるというふうに考えておるところでご

ざいます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

行政にぜひ頑張っていただきたい部分であります。

でも、今の課長のご答弁聞いていますと、ＤＭＯも一緒にこの部分、関わっていくべきなのではないかなというふうに思いました。例えば今マリンドリーム能生周辺整備計画が行われておりまして、こちらはコンサルタントの会社が入って計画を作成・策定、主導で策定してくださいました。

ただ本当は、行く行くは、未来的にはＤＭＯが主導となって、こういった計画も策定できるようになっていくといいのではないかなと考えております。

それでは、（３）のガイドの育成についての取組を伺いたいと思います。

現状、例えば観光協会とかのメニューのプログラムの中に、学芸員さんがガイドを務めるものがございます。学芸員さんのガイドって本当にすばらしくて、私もこれが人気だというのはすごく理解できるんですけれども、例えば以前ジオパークガイド研修に参加させていただいたんですけれども、ガイドの質を高めるというところも、学芸員さんが今、糸魚川市を担っている状況だと理解しています。それだと確かに観光協会はガイド料を支払わなくて済むので、何ていうのかな、取り分が多くなるし、いいことなのかな。学芸員さんにおいても、別に嫌だとは私は聞いているわけではないので、嫌だということもないとは思うんですけれども、ただ、そのガイド料が無料で使えて、それで収益を上げていくっていうのだと、ちょっと持続可能とは言えないのではないかなというふうに思いました。

そこで、箱根ＤＭＯガイド育成プロジェクトと海の京都ガイド育成支援事業について、事前に担当課にもご紹介をさせていただいてるんですけれども、どちらもＤＭＯが主導で取り組んでいるものであります。ＤＭＯで、ぜひ取り組んでみてはいかがでしょうかという意見交換も実はさせていただいていて、先方さんからは前向きなお話をしていただけたと私は思っているんですけれども、ＤＭＯと協力して、市としても優秀なガイド人材育成は、今後、先進地でもこれはまだ難しいと言われているんですが、観光でご飯を食べていける人を増やすという意味合いで、とても重要なことだと思うんですけれども、その部分に支援する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

ガイドやスタッフの高齢化や不足によりまして、様々に今課題がございます。現在、やはりガイドの会の組織体制の見直しを進めているところでございまして、観光協会においても、箱根や京都のＤＭＯの事例を参考に、新たなガイド育成プログラムを検討しているというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

補足させていただきます。

議員ご指摘のように、やはりガイドの重要性というのは、非常に糸魚川にとっては大切だと思っております。と申しますのは、糸魚川の景観が、全国であったり世界の観光地と見比べたときに、やはり糸魚川の魅力というのは、外形・外見だけの魅力ではないわけでございまして、大地の中にあるのが結構多い部分がございます。そのようなことから、糸魚川の観光と、そしてまたジオパークの活動は、ダブってるものが結構多いわけでございますので、やはり私たちは、そういった知的な満足度を高めるためにも、ジオパークガイドの育成を取り組んでまいってきたわけであります。

しかしながら、とは言いながらも、やはり一般の方々も楽しんでいただけるような環境をもっともっと高めていかなくちゃいけないと思っておる次第でございます。これは、当糸魚川市のみならず、全国のジオパークがそのような思いをいたしておりまして、今年の銚子の日本のジオパークネットワークの大会のときにも、事務局長会議の中において、この新たなやはり、もっとガイドの育成に力を入れていこうというのが決議されている部分もございます。

そのようなことから、ぜひともやはり糸魚川も、そのジオパークと観光、一体となって、訪れた方々に楽しんでいただける。また喜んでいただける環境をもっともっと高めていきたいと思っております。それは今観光協会と、やはりジオパーク協議会が連携して取り組まなきゃいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

では、（４）について再質問いたします。

海の京都ＤＭＯでは、地域通貨、海の京都コインを利用しておりました。ここでは、広域的な利用促進という意味合いよりも、観光に来た人が、例えば宿泊先の宿泊料を支払うと、翠ペイにポイントが還元されて使えたりだとか、糸魚川市に来る前にふるさと納税を糸魚川市にしていただいて、ポイントが付与されていて、旅行に来たときに宿泊先や食事でポイントを使ってもらうなどの使い方ができれば、もっと広がりを見せるのではないかと思うんですが、その部分の拡充のお考えがあるか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

海の京都コインにつきましては、おっしゃるとおり広域観光ＤＭＯが実施しているふるさと納税の返礼品だというふうに考えてございます。広域で利用できる商品券だと。そういった視点ではな

くて、海の京都コインと同じ方式の現地決済型のふるさと納税の仕組みだというご質問かと思っております。そうしますと、今現在、市として取り組んでいるものとしては、クーポン券、または電子マネーという形で受け取れる仕組みというのはございます。

ただ、議員ご指摘のとおり、残念ながらなかなかＰＲがうまくいってない現状がございます。やはり観光客の皆様に届くような仕組みというのが課題かなというふうに考えているところでございます。

あと、やはり広域でというところは、やっぱりちょっとなかなか難しいところかなというふうには感じているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

ごめんなさい、ちょっと分からなくて、もう一回聞かせていただきたいんですけど、翠ペイとして利用していくというところの部分、お考えあるかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、失礼いたしました。先ほど申し上げた形、現地決済型のふるさと納税の仕組みといったものの中で、現在、翠ペイではないですけれども電子マネーとして返礼品を受け取る仕組みがございますので、翠ペイでも可能なのではないかというふうには考えてございます。

ただ、もう少しちょっと研究をさせていただいて、どうしてもふるさと納税という形ですと使えるお店というのも限られてくる。ふるさと納税という仕組みですと市民が使えないという形にもなってまいりますので、その辺りを少し精査をしていきたいというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

そうなんですよ。市民だけじゃなくて、市外の人も使える翠ペイにしたらどうかという意味の質問なので、市民がふるさと納税できないというのは大丈夫です。ありがとうございます。

では次、最後なんですけれども、観光資源の発掘の作業というのは、糸魚川市は資源が豊富だと思うので十分だと私は思っています。磨き上げ、発信して認知させるプロセスについては、どのようにしていくのか。今現状、しているとは思うんですけれども、もしそこを十分ではないと思うのであれば、その根拠は何なのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

地域資源につきましては、やはり磨き上げは、スポット、観光スポットだけではなくて、やはりそのスポットとスポットを結びつく、糸魚川ならではのストーリーづくりが必要ではないかなというふうに思っております。まだまだそういったストーリーというのは、市内全域で確立できているかと言われると、まだまだ弱い点があるというふうに考えております。今後は、やはり地域活性化企業人、そういったマーケティングだとかイベント等、得意な方も今おられますので、そういった方と一緒に取り組んでまいりたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

その成果をいつ、どのように図っていくのかというところもすごく気になる部分であります。

冒頭に伺いましたけれども、糸魚川市の観光、目指す観光のビジョンを広く、市民であったりだとか事業所の皆さんに共有して、みんなでそれを目指していくという取組が必要なのだと思います。

そこで、私からの提案は、仮称なんですけど、糸魚川市観光戦略プランなるものを制定して、一つのビジョンに向かって、それぞれの法人、団体、行政が向かっていけるような一つの示した計画も必要なのではないかなというふうに思うんですけれども、その部分、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今現在、糸魚川市で総合的な計画プラン等はございません。

しかし、ジオパーク戦略プロジェクトには、教育ツーリズムなどの記載もございますし、また、先ほどもちょっと答弁させていただきましたが、総合計画の中にも観光の振興というのは計画させていただいております。

ご提言のとおり、やはり市全体の観光政策の考え方や方向性を示す計画につきましては、糸魚川ＤＭＯと連携しながら、作成するかどうかも含めて検討させていただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

ご検討いただけるということで、もしご検討いただけるのであれば、その中で都市計画との連携、並行して景観条例の制定も含めたものにしていただきたいなと思います。これは要望にとどめます。

しばらく長引きそうな円安は、インバウンドの取組を見据えた市内観光を見直すチャンスだと捉

えております。市内にも感覚的にトレンドをつかんで上手にご商売されている方も見られます。糸魚川市が一体となって観光地域づくりができることを目指していただくことをお願いして、次の質問に移らさせていただきたいと思います。

それでは、２、子育て支援についてです。

厚生労働省のデータより、２０２３年に５３歳になる女性が子供を持たない割合を見ると、日本は２７％で、さらに国立社会保障人口問題研究所が、２０２３年に公表した将来人口推移推計報告書では、２００５年生まれで、２０２３年に１８歳になる女性が５０歳になった時点で子供を持たない割合は４２％になるという予測が発表されました。少なく見積もって、女性の３人に１人が生涯子供を持たない。また、男性の場合の未婚率はもっと高く、最大５割、男性の２人に１人が生涯で子供を持たない人生を送ることになります。

そのような中で、現在子供を育てている人、将来子供を持ちたいと思っている人の背中を押す施策が必要と考えます。

（１）再質問させていただきます。

糸魚川総合病院の分娩取扱い再開、すごく私もうれしかったです。現状の産科の体制、分娩取扱い件数について、報道では６０件程度になるのではないかという報道も見られましたが、その部分と、現在、糸魚川総合病院で行っていただいている産後ケアの継続していただけるのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

糸魚川総合病院の分娩体制でありますが、基本的には、新たに着任をされました医師１名で、リスクの低いお産を取り扱うということであります。

ただし、緊急時に妊産婦を守るためには、産婦人科医、それから小児科医など、病院内において協力しながらサポートする体制というのは整っておるというふうにお聞きをしております。

また、安全な分娩体制を提供するためには、ハイリスクの可能性のある分娩については、医師の判断でもって近隣の病院のほうへ紹介をさせていただくということにしております。

それから、出産数、それから里帰りの件数、こういうことから、そこからハイリスクの方を除けば、十分、今のこの体制で対応できるというふうにお聞きしております。取扱いの件数については、今のところ上限は設けないということでお聞きをしております。

それから、産後ケアについては、この後、こども課のほうから答弁をさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

それでは、後段の産後ケア事業の継続性につきまして、こども課より、お答えさせていただきます。

糸魚川総合病院では、令和５年４月の分娩取扱い休止以降、「ＢｉｒＣＥ（バース）プロジェク

ト」といたしまして、特に産後ケア事業につきましては、これまでの訪問型に加えまして、通所型、通いの通所型、また、ショートステイの宿泊型ということで拡充をいたしまして、産後の環境が広がってきております。先般の糸魚川総合病院との関係者との打合せの中では、これらの産後ケア事業につきましても、引き続き継続していただけるというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

それでは、こども課も行っていた施策についてはいかがでしょうか。市長答弁に、交通費と宿泊費の支援などは継続していくというご答弁いただいたんですけれども、救急車の支援だったりだとか、あとタクシー、出産お祝い金というのがあったと思うんですけれども、その部分は、今後どのような方向性なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院での分娩取扱い休止に伴いまして、新たに設けました、今ほど出産時の交通費助成事業、またホテル等に伴います宿泊事業、また救急車に登録の妊婦事前登録制度、またさらには、誕生祝い事業につきましても継続していきたいと考えております。

また、以前、伊藤議員より誕生祝い事業の支給時期についてもご提案いただいておりますので、そういった部分につきましても、妊娠時に助成といいますか、支援できないかという部分につきましても実施の方向で考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

特に出産のお祝い金についてなくなっちゃうんじゃないかなというふうに心配していたんですけれども、継続の方向性ということで安堵いたしました。

そこで、再度質問させていただきたいんですけれども、産科医が、今１人規定で分娩の取扱い件数に上限を設けずに取り扱っていただけるということで、それもすごく喜ばしいこと、糸魚川総合病院、糸魚川で分娩したい人、希望に応じて、対応できるということと理解しましたが、糸魚川総合病院の方向性として、今後も産科医を継続的に維持していくお考え、分娩の取扱いを続けていくというお考えがあるのか。その部分、何か総合病院の方針とか、例えばこの医師がいなくなったら終わりますよとか、そういうことは何か言ってらっしゃるのか、お伺いしたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

糸魚川総合病院で、まず制限を設けないというのは、ハイリスクの方は別な病院ですけども、リスクの低い方については制限を設けないということでご理解をいただきたいと思います。

それから、私、１１月１７日に初めて着任をされた産婦人科のお医者さんと話をさせていただきました。その中では、自分ができる限り、この当地域のお産を支えていきたいんだという心強いお話も伺ったところであります。

糸魚川総合病院は、今お話ししましたように、産科を続けたいという意思でもってお医者さんを探しておりますので、当分は、当面は今後も産婦人科を継続しなければならない。そして、併せて小児科もという意思があるんだろうというふうに私は考えております。

ただ、将来的なその体制については、引き続き病院とどういう形で継続できるのか、連絡調整しながら協議をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今、医師の方が着任されて間もなくで、こんなこと言うのも失礼かもしれないんですけれども、もしこの方がいなくなってしまったりだとか、何か体調不良があったりだとか、定年を迎えただとか、そういう事態に、また同じように医師確保に右往左往するような状況にだけはなってほしくないというふうに思っております。今、医師の募集というのは、多分見つかったのでしていないんだろうなというふうな予想を自分の中ではしているところなんですが、引き続き医師の募集活動を、してもなかなか来ないというのが、もうこの１年間ちょっとで分かりましたので、引き続き、継続的に行っていただきたいなと思うんですが、その部分、お考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。　〔健康増進課長　池田　隆君登壇〕

○健康増進課長（池田　隆君）

今新しいお医者さん、おいでをいただいたばっかりですし、じゃあその後のことを今からというのは、ちょっと早いような気がします。

ただ、先ほどもお話しさせていただきましたように、分娩については継続できるように、病院と協力しながら努力していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

今回の分娩の休止期間で、市民の方でも産前産後ケアの充実、分娩ができない分、産前産後ケアを充実させようという市民の方が立ち上がってくださったりだとか、あと、糸魚川総合病院の中でもショートステイまで整備していただいて、悪いことばかりではなかったなというふうに個人的には思っています。これをご縁に、私もそういうたくさんの市民の方とお会いすることができました

し、悪いばっかじゃなかったなという気持ちもあるんですが、せっかくここまで皆さんが立ち上がってくれて、妊婦の産前産後ケア、頑張ろうという機運がせっかく醸成されたので、その機運をまた無にしないように、引き続き高めて、さらに妊産婦さんのニーズをよく聴いて、サービスの向上に努めていただきたいなと思っております。

（２）について、お伺いいたします。

今のところお考えはないということで、私も考えがないという答弁が来るだろうなと思って準備してきたので、お伝えさせていただきたいと思います。

情報通信サービスを行うビッグローブ株式会社が行ったアンケートについてなんですけれども、子育てに関するＺ世代の意識調査を、今年の２月に全国の１８歳から２５歳までの未婚で子供のいない男女５００人に聞いてくださっています。同様のアンケートってたくさんあるんですけれども、このビッグローブさんのやったアンケートいいなと思ったのは、この１８歳から２５歳の未婚、まだ子供を持っていなくて、これから考えていくという世代の人に聞いてくれているアンケートで、面白いと思って取り上げました。

その中で、将来子供が欲しくないＺ世代は４５．７％、一方で、将来子供が欲しいと回答した１８歳から２５歳までのＺ世代の男女２４８人に、子供には将来どのようにしたいか、複数の質問に対して聞いたところ、自身と同様、もしくはそれ以上に習い事や進学をさせたい。それが難しいのであれば、子供を諦めるか人数を減らしたいとの意見が６割強を占めたということです。自身と同様、もしくはそれ以上に習い事や進学ができるような支援があれば、子供の数を増やしたいという人は７割にも上るという結果だったそうです。これは、厚生労働省や県が行う調査でも表れておりまして、理想の子供の数を持たない理由として、子育て等に係る経済的負担を上げる声が７割超で、最多という結果にも表れているものだと思います。

さらに質問は続いていて、子育て支援が自治体によって異なることについて質問をしたところ、一律にすべきだと思うが、自治体ごとの独自の施策があってもよいというものを上回ったそうですが、現状はそうなっていませんよね。国が一律にしてくれていません。

さらに、子育てをする場合、自治体による子育て支援の違いを、引っ越しの際に考慮すると思うかどうか質問すると、「思う」と「やや思う」を合わせて７割となったということです。若い世代は、子育て支援策によって住む場所を変えますよと言ってるアンケートだと思うんですね。

これを受けて、現状、糸魚川市として、これ以上の拡充の考えはないということなんですけれども、改めてお考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。　〔教育委員会こども課長　嶋田　猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

子育て支援という部分につきましては、妊娠から出産、さらに育児というところで、様々なケースで経済的な支援を行うとともに、やっぱり相談をするだとか、また発達支援という形で、決して経済支援だけが子育て支援だというふうに、私どもは捉えておりません。

しかしながら、今ほど伊藤議員おっしゃいますとおり、やはり経済的な部分といったことも重要

であるというふうなアンケートというふうな結果も、思いも多いというふうに捉えております。様々な支援策がありますけども、総合的にどういった形で支援していけば、そういった世代の方々が子供を、まず結婚して、子供を産み育てていけるかといった部分を、希望される方のものを実現できるように、市としてもしっかりと支援をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

お願いします。

最後の質問です。

新潟のＮＰＯ法人みらいずｗｏｒｋｓがまとめた子育て悩み白書２０２３年によれば、子育てする人の５人のうち３人が不安、何かしらの不安を抱えているということです。その不安を思索的解決するものが、ここまで質問してきたことだと思っているんですけれども、この人たちが安心して子育てができる雰囲気、機運の醸成というものも非常に大切だと考えています。アンコンシャスバイアスというふうに言わせていただいたんですが、これは、例えば子育てに置き換えたとき、子供のために何とかすべきとか、ママだから何々すべき、パパだから何とかすべきというように、無意識のうちに決めつけられていたり、当人自身が思い込んでいる偏見のことを指します。これは、自分でも気づかないうちに持っているものなんですけれども、この思い込みというのは誰でもあるということを自覚する必要性、アンコンシャスバイアスがあるのがいけないと言いたいんではなくて、これ誰でも持ってると自覚することから始める必要があることです。

現場で、直に子育て中のママ、パパ、保護者と関わる機会が多いと思われる教育委員会、こちらには専門的な知識を持つ方多いと思いますが、例えば療育相談のときなど、ママとかパパを目の前にして、子育て頑張るパパばっかりを褒めたりしてしまっていませんか。親であれば、当然こうあるべきだというような固定概念の上に対応してしまっていないですかということを、教育委員会にお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鬮本教育長。　〔教育長　鬮本修一君登壇〕

○教育長（鬮本修一君）

お答えいたします。

無意識の思い込みは誰にもある、誰にでもあるんだということを今議員さんおっしゃいましたけれども、その辺の部分の立ち位置は基本的にあるわけですけれども、私ども教育委員会の管轄中で特にこども課については、子育て真っ最中のパパ、ママと出会う場面がたくさんあります。いろんな相談、あるいは研修、啓発の機会、あるわけですけれども、職員はそれぞれに、人権意識を基盤にしながら男女共同参画社会の実現に向けて、その立ち位置に立って仕事をしているという部分については、しっかり押さえてるというふうに私ども捉えています。関連して、やっぱり学校も保育園も含めてなんですけども、子供たちや保護者の前に立つ職員も、教育委員会はいっぱい抱えています。そんなことからすると、今ほどの無意識の思い込みによって、押しつけとか、決めつけとか

いう部分のところがあってはならないわけです。そこら辺りのところは、機会を捉えて、この部分のところは十分注意しましょうということについての働きかけは、進めていきたいなというふうに思ってます。特に自己認知ということも議員さんおっしゃいましたけれども、その辺の部分の立ち位置をしっかりと自分自身が押さえた上での仕事の推進という部分については、基本的なこととして押さえて進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

それでは、職場環境においてもご質問したいと思います。

糸魚川市全体への雰囲気づくりにも、この糸魚川市役所の庁舎内の雰囲気って影響してくるものだと私は思っています。

そこで、庁舎内でも、このアンコンシャスバイアスについて考える機会を持つことについて、その価値を既に取り組んでいれば、それを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺　忍君登壇〕

○総務課長（渡辺　忍君）

お答えいたします。

いわゆるアンコンシャスバイアスにつきましては、非常にその中身を理解することは職員にとっても重要なことだと考えております。

ただ、今までは、そのような視点で特段研修等は行ってきてはおりませんが、今、実際に市の研修のほうで活用しておりますｅラーニングのメニューの中にそのような項目が入っておりまして、それらを活用する中で、これから職員のほうに、そのような機会を設けていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

冒頭で述べたように、女性の３人に１人、男性の２人に１人が子供を持たない社会になれば、身近に子供がいないという人が増えることになります。そうなれば、子育ての経験があったとしても、時代の流れによって子育ての常識をみんなでアップデートしていかなければ、無意識の思い込みによって子育てをする人を取り巻く環境が、よりぎすぎすしたものになってしまうことを懸念しております。そうならないためにもアンコンシャスバイアスについての自己認知、地道ではありますが、必要のあることだと考えますが、庁舎内の雰囲気づくりについては副市長、糸魚川市全体の雰囲気づくりについては市長に、それぞれのお考えをお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。　〔副市長　井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

無意識の思い込みは、私自身も持っているというふうに思っています。これまでの職務経験上でも、やっぱり人から意見を言われて気づいたことがございました。それで、今子育ての話ということなんですけども、私も人事の担当をずっとやってきて、今直近の話ではないんですけども、過去には今の子育て世代はいろんな休暇制度だとか給付制度があっていいよね、私のときはなかった。暗に何か休みづらいような発言であったり、奥さんがいるのに男性が休暇を取る。そういったことについてのやっぱ批判的な意見というのは、あったことは事実でございます。これはもう大分前の話なんですが、そういったことを私も今まで職員のほうに周知してきたつもりであって、そのことについては浸透して、そういった意見が今ないのかもしれませんけども、やっぱり時代時代に沿って動きが変わってくるわけですから、今ほど総務課長、答弁申し上げましたとおり、改めて職員の研修のほうをしていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

基本的に、私はそんな思い込みについては、行っていない、行ってきてないと思っております。と申しますのは、合併して、人事の中において、私はフラットの考え方の中で進めてまいっておりまして、過去のいろんな方々からお叱りを被ることもあったかもしれませんが、そういったところを排除しながらやってきております。

ただ、やはり長い歴史の中において、やはりいろんなルールみたいなもの、暗黙のルールみたいなものもありながら、それをやっぱり排除しながら、一気に変えるというのはなかなか難しいかもしれませんが、それに対して対応してきたと思っておりますし、これからも、さらにそういった社会の流れに沿って、加速することも必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○６番（伊藤　麗君）

糸魚川市が子育て世代に優しい市であるように、これからも地道ではありますけれども、皆さんと啓発、私も一緒に頑張ってまいりたいと思います。

それでは、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。